



# 共済推進全国交流集会を開催！ 共済推進 組織拡大 更なる前進を

## 3年ぶりの会場参加で

10月14日、22秋・共済推進全国交流集会が開催されました。154単組支部から204名（会場61名、オンライン143名）が参加し、特別報告や実務研修、経験交流会を通し、進んだ経験や教訓などを大いに学び、共有しました。

新型コロナウイルス感染拡大のはじまりから、1年目は集会中止、2年目は完全オンラインでの開催、今回はオンライン併用ですが、久しぶりの顔を合わせての交流集会となりました。開会挨拶を行った佐々木悦子執行委員長は、「仲間同士の助け合い、少ない掛け金で充実した保障である医労連共済を組合員に提供することが、組合員の“もしも”を守ると同時に、可処分所得を増やす“第2の賃上げ”となることに確信を持ち、共済推進の運動をすすめよう」と呼びかけました。



## コロナのピンチをチャンスに変えよう

次に、内田博之共済事業局長が基調報告を行い、33期の事業報告とともに、加入推進にむけた取り組みを提起しました。内田局長は、冒頭、新型コロナの申請がかつてないほどの規模となっていることを紹介し、コロナ禍での給付の対応や加入推進での全国の奮闘に敬意を表しました。一方で、給付金が幅広く届けられ注目が寄せられる状況になっていると述べ、「コロナのピンチをチャンスに変えよう」と加入推進・組合拡大を呼びかけました。

加入推進について、コロナ禍で新規加入者が減っていることをあげ、医労連共済を組合員に知らせる共済説明会の開催をコロナ前に戻していくことが重要だと述べました。また、共済推進の具体的な取り組みとして、①担当者を決める、②役員がまず加入する、③毎回の会議で共済推進をとりあげる、④行動を具体化する、とし、共済説明会をはじめ、組織一律加入、新歓での共済プレゼントや共済アンケートを旺盛に取り組み、医労連共済をひろげようと呼びかけました。

## 特別報告

### ☆新歓キャンペーン／伊東市民病院労組・木下 建太郎さん

「新人は、毎年ほぼ9割拡大、組合拡大にとって新歓は負けない闘い」とし、新歓では、「音楽を流すなど、楽しい雰囲気、難しい話をしないなど、気をつけている」と述べました。2カ月間無料キャンペーンでは、「3型、7型+医療共済16口、7型の3択を提示。日本人は3択で真ん中を選ぶ傾向がある。7型だけだと、継続するか辞めるかの2択だが、型下げでも継続してもらえるチャンスがある」と、工夫を紹介しました。



## 特別報告

### ☆毎月拡大／岩手医大教職組・田村 巧さん

「共済の拡大は、組合加入と一緒に取り組む」とし、「新歓のほか、毎回中途入職者にも組合加入を働きかけ、組合加入者には、交付金を活用し、翌年6月末までセット7型の掛金を補助し、だいたいの組合員は継続している」、「脱退者や未加入者にも、日常的に組合加入を声掛けしている」と紹介。A3用紙に「共済加入申込書」「補助内容」「健康告知」を一体にして、説明をしやすい工夫も紹介しました。



## 特別報告

### ☆共済説明会／北海道勤医労・三上 友衛さん

「医労連共済の助成を活用し、説明会を旺盛に行った結果、加入者が倍化。パート職員の組織一律共済を開始で、共済の知名度が上がった」とコロナ前の状況を紹介。「コロナ禍で加入まで結びつかない説明会の難しさはある。少人数でも楽しい説明会をつくる。短時間説明し、詳しく聞きたい人はその後、残ってもらう。そこをどう増やすかが肝」、「今後、給付事例など、単純に良いものだと伝える説明を心掛けたい」と話しました。



## 特別報告

### ☆共済推進の意思統一／愛知県医労連・矢野 彩子さん

共済推進・組織拡大の意思統一として、春に2回と秋に組織拡大と共済推進に関する会議を開催し、経験交流を行っていることを紹介。「医労連共済は労働組合の宝物。医労連共済の取り組みが、組合員を増やし、労働組合を辞めない。労組の財政強化に繋がり、共済の魅力で組合員の喜びも増える」と、意思統一をし、奮闘する愛知県医労連に加盟する単組の奮闘の様子や、県個人加盟労組の状況を紹介しました。



各種資料や情報満載！医労連共済のホームページをご活用ください！！

<http://www.iro-kyosai.jp/>